

監査結果報告書

2023 年 5 月 31 日

社会福祉法人保健福祉の会 殿

監 事 北田喜美代

監 事 佐藤 晃敏

私たち監事は、社会福祉法第 40 条および関連法に基づき 2022 年度（2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日）の監査を以下のとおり実施しましたので報告します。

監査日時 2023 年 5 月 29 日（月）9 時 30 分～16 時 00 分

監査場所 都和のはな 3 階会議室

立 会 人 川原法人常務理事、坪田老健西の京事務長、猪熊特養都和のはな施設長、和田グループホーム都和のはな管理者、和久田ケアステーション虹の家管理者、京藤青い空保育園園長、福田洛西保育園園長、谷川あらぐさ保育園園長、竹山白い鳩保育園園長、竹内児童支援事業部長、田村法人事務員、松山西の京事務員

監査結果

1. 社会福祉法人保健福祉の会の 2022 年度の財産目録及び損益計算関係書類の点検照合を行いました。違算なく合致しており適正に処理されていることを認めます。

2. 法人および各事業所

（1）法人の結果

利用者、職員の安全と生活を守るため奮闘している役職員の皆様に敬意を表します。2022 年度は引き続きコロナ禍への対応や保育事業における補助金削減により、厳しい状況に直面しました。安定的に経営を維持するために奮闘されることを期待します。

2022 年度の法人合算では、当期活動増減差額 5,665 万円の黒字となっています。予算よりも増益となっていますが、高額の寄付金や新型コロナウイルス感染症関連補助金を除けば厳しい状況となっています。事業毎では、介護事業で 1,646 万円（3,249 万円の寄付金と 1,974 万円の補助金を含む）、保育事業 247 万円、児童支援事業 3,112 万円の黒字となっています。

事業活動のサービス活動収益は 16 億 170 万円となり、前年より 2,318 万円（前年比 101.5%）の増収で、予算に対しては 5,133 万円（予算比 103.3%）の超過となっていますが、寄付金の影響があります。事業毎には、介護事業 4,154 万円（前年比 105.4%）の増収、保育事業▲2,462 万円（前年比 96.4%）の減収、児童支援事業 625 万円（前年比 104.5%）の増収となっています。

資金収支差額合計では、事業活動資金収支差額は 1 億 1,797 万円で、2,628 万円の黒字となっています。今期の固定資産取得は、3,998 万円となっています。又、人件費積立金を 2,400 万円行っています。取得手続き、資金も事業活動資金収支差額や設備資金積立の取り崩しで対応しており適切です。

財政面では、総資産は、28 億 584 万円で前年度より 1,307 万円の増加となっています。固定資産は、取得資産、積立金等の増加、減価償却の差引で▲2,672 万円の減少となり、負債は、5 億 6,504 万円で前期より▲2,978 万円の減少となっており安定しているといえます。各施設は、建設後長期が経過し老朽化が進行しており、計画的に対応を進めて頂きたいと思います。

法人運営では、常務理事の交代がありました。また、児童支援事業部長の交代もありました。理事会の出席率は 96.9%、評議員会は 85.2%となっています。定期に介護事業部会・保育事業部会・児童支援部会が開催され、効率的な運営が行われています。また、保育部と児童支援部の交流も深まっています。

（２）各事業所・施設の結果

2022 年度も、介護事業・保育事業・児童支援事業の安定的な運営、利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供や幹部職員の配置と育成・職員の育成と労働条件の整備をかねて取り組んできました。以下は、各事業分野での取り組みの結果です。各分野とも共通して新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。

① 介護事業

特養都和のはなでは、コロナのクラスターを２回経験しました。ショートステイの利用低下は、連携する急性期病院の退院サイクルが短くなっているため運用に苦労しています。老健西の京は、平均ベット稼働率 86.8%で、2022 年に超強化型の基準を取得し維持しています。しかしながら、２回のコロナのクラスターによる影響は大きいものがありました。グループホーム都和のはなも、コロナのクラスターが発生しており、ベッド利用率は 92.7%に留まりました。コロナ禍での家族面会の制限・禁止や行事の中止もあり運営上の課題となっています。ケアステーション虹の家は、管理者が産休・育児休業から復帰し、常勤２名の体制となりました。そのような状況のなかで、訪問介護の件数については平均 43 件を確保しています。

決算の特徴は、サービス活動収益で、特養都和のはなは、前年比 108.5%の増収、老健西の京は 99.9%の微減、GH都和のはなは 96.1%の減収、虹の家は 290.7%の増収、合計で 105.4%、4,154 万円の増収となっています。当期活動増減差額は、特養都和のはなは 73 万円の黒字、老健西の京は▲1,262 万円の赤字、GH都和のはなは▲392 万円の赤字、虹の家は 3,228 万円の黒字となり、合計で 1,646 万円の黒字となっています。

② 保育事業

各園とも、前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症に関する感染対策、保護者や職員対応、行事の見直しなどを随時行っています。すべての保育所でコロナ対応による部分休園がありました。白い鳩保育園の園長交代がありました。補助金削減による影響額は、▲4,056 万円となっています。

各園の入園状況は、１か月平均で、白い鳩保育園 120 名、洛西保育園 130 名、あらぐさ保育園 59 名、青い空保育園 71 名となっています。白い鳩保育園では、118 名のスタートでしたが年平均では 120 名を確保しましたが、体制変更や工夫を図ってきました。洛西保育園は、０歳児の数が少なく年度途中も積極的に受け入れを行ってきました。あらぐさ保育園では、０歳児の受け入れは 6 月には 10 人となり職員体制も安定していました。新入職員や育休復帰者のメンタルサポートに着手しています。青い空保育園は、定員越えの 73 名の受け入れでのスタートでしたが、急な引っ越しが相次ぎ、園児数が安定しませんでした。

決算の特徴は、サービス活動収益で、白い鳩保育園、前年比 98.2%の減収、洛西保育園 97.2%の減収、あらぐさ保育園 96.0%の減収、青い空保育園 93.4%の減収となっています。当期活動支差額は、白い鳩保育園 265 万円の黒字、洛西保育園 120 万円の黒字、あらぐさ保育園 79 万円の黒字、青い空保育園▲217 万円の赤字、合計で 247 万円の黒字となっています。

③ 児童支援事業

2022 年度に保育事業部より児童支援事業部長が異動し新たな体制となりました。コロナ禍での通園による影響もみられました。新たに、３事業所で通園する子供にたいして発達検査を実施しています。また、パーチェ開設 20 周年記念出版の準備もすすめています。児童相談支援は、年度末の放課後ディサービスや単独通園施設に向けた計画件数が多く見られるが、移動支援、短期入所、訪問リハビリなどの福祉サービスの利用にも対応しています。利用者状況は、パーチェ年間 2,942 名（１日当たり 10.1 名 前年度比 95.3%）、第二パーチェ年間 2,740 名（１日当たり 9.5 名 前年度比 100.0%）、パーチェ梅小路年間 2,739 名（１日当たり 9.4 名 前年度比 103.3%）相談支援パーチェ計画相談 229 件、モニタリング 210 件（前年度比 105.3%）となっています。

サービス活動収益では、パーチェは前年比 97.8%、第二パーチェは前年比 103.4%、パーチェ梅小路 114.4%、相談支援パーチェ 103.8%、合計で前年比 104.5%、625 万円の増収となっています。

当期活動増減差額は、パーチェ 1,259 万円の黒字、第二パーチェ 1,079 万円の黒字、パーチェ梅小路 737 万円の黒字、相談支援事業パーチェ 36 万円、合計で 3,112 万円の黒字となっています。

以上